

## カタクリ (学名: *Erythronium japonicum*)

[ユリ科 カタクリ属]



〈蒲生岳登山口 カタクリ公園〉



〈つぼみの付いた二葉と片葉〉

カタクリは、北海道、本州、四国、九州に分布するユリ科の多年草で“スプリング・エフェメラル”と呼ばれる春植物の一つで只見の春を代表する花の一つでもあります。エフェメラルとは、「短命なもの・儚いもの」という意味で、花が終わり種子を作ると葉も無くなり、翌春まで見ることが出来ないところからきています。

種子には“エライオソーム”と呼ばれる蟻の蛹に似た匂いを出す物質が付着しているため、蟻は蛹と間違えて巣に運びいれてしまいます。蟻をだまして効率よく種まきをしているようです。

しかし、カタクリが、発芽から花を咲かせるまでには、7～8年ほどの長い時間がかかります。1年目の芽は、糸のように細く肉眼で見つけるのはなかなか大変です。2枚の葉を付けるようになると花を咲かせますが、それまでは1枚の葉で過ごします。

芽吹き前の落葉広葉樹林や山間部の日当たりのよい斜面、林縁などで、他の植物が繁る前に葉を展開し花を咲かせます。只見町では“カタバ”と呼ばれ、道路脇など町内のいたるところでその姿が見られます。蒲生岳登山口の栗林では大群落を形成しており、赤紫のお花畑が広がります。花期は、雪解けが進む4月下旬から5月下旬頃までです。

企画展

「絶滅危惧種 ヒメサユリのすべて」

4月26日(土)から6月30日(月)まで開催

プラセンター講座

6月21日(土) 13:30～15:00

「只見地域のヒメサユリの分布と生態」

講師：大曾根陽子さん(首都大学東京・客員研究員)

自然観察会

6月22日(日) 10:00～12:00

「開花中のヒメサユリの自生地を訪ねる」

場所：只見町塩沢地区(予定)

詳しくは、  
只見町プラセンター  
までお問い合わせ  
ください